

# 「地産地消等」優良活動で大臣賞

## 加古川市の八幡宮農組合

### 国内初パスタ用小麦栽培

加古川市の農八幡宮農組合が農林水産省の「地産地消等優良活動表彰」生産部門で、最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。

同組合は、農研機構とニッポン（株）が共同で開発した国内初のパスタ用デュラム小麦「セトデュール」の試験栽培を2011年から開始。栽培層もない中、高タンパクが求められ、赤カビ病に弱いデュラム小麦の栽培は手探りで試行錯誤の連続だったという。5年前に

生産と品質の安定化にこぎつけ、現在は31畝で栽培している。

収穫した小麦は、市内のオーマイ（株）で製麺され、市の支援を得て「加古川パスタ」として市内の食堂やJA直売所、スーパーなどで販売されている。また、ふるさと納税返礼品や学校給食でも提供されている。

同組合では、八幡町内330畝のうち17畝を耕作しているが、高齢化と後継者不足から近年中に預か

る農地が200畝まで拡大すると見通している。耕作放棄地を出さないため、農地の所有者が市外の人でも預けやすいよう、無償で借り受けることにしている。

同組合の本岡壮一副代表理事は「農地拡大に伴う設備投資や人員の確保がこれからの課題。加古川パスタの知名度を高めるとともに、利益率の高い作物を生産していく必要がある。行政からの補助や指導にも期待する」と話す。



表彰状を手にする本岡副代表理事